

平成10年度厚生科学研究費補助金
(厚生科学特別研究事業)

総括研究報告書

新技術媒体を利用した医療等に関
する情報の提供と利用の現状
分析についての予備的研究
(H10-特別-072)

平成11年3月

主任研究者

東海大学医学部 大櫛陽一

分担研究者

神奈川県医師会	田中忠一
神奈川県医師会	遠藤郁夫
東海大学医学部	春木康男
東海大学医学部	岡田好一

厚生科学研究費補助金（特別研究事業）

総括研究報告書

新技術媒体を利用した医療等に関する情報の提供と利用の現状分析についての予備的研究

主任研究者 大櫛 陽一 東海大学医学部教授

研究要旨

インターネット等の新技術媒体を利用した医療等に関する情報の提供についての適切なガイドラインを策定するための基礎資料を得る目的で、医療等に関するインターネット利用の現状分析を行った。本研究は予備調査であり、本格的調査を有効に実施するための成果が得られた。

分担研究者

田中忠一・神奈川県医師会 会長
遠藤郁夫・神奈川県医師会 医療情報
システム検討委員会委員長
春木康男・東海大学医学部 講師
岡田好一・東海大学医学部 助手

の広告規制の本旨を損なう可能性があることも否定できない。こうした時期に新技術媒体を利用した医療情報提供の概要について把握しておくことは、重要な意義を持つ。しかしこのような新技術媒体による医療情報は、提供手段も様々で、その存在場所も多岐にわたる。そこで今回の特別研究では、本格的な現状調査を実施する際の調査手法の開発を目的とし、小規模なFeasibility Studyを実施した。この研究の成果は本格調査に応用され、そこで得られた結果は新技術媒体利用のガイドライン策定の基礎資料となる。これにより医療に関する広く正確な情報が迅速に入手可能になれば、それを必要とする患者にとってもメリットがあり、医療の質の向上も期待される。

A. 研究目的

現在、開かれた医療を目指し、医療情報の公開の必要性が広く認識されてきている。医療機関や医療技術に関する情報は患者に選択の際の指針を提供し、これは医療の質の向上や医療費の削減にもつながることとなる。医療を受ける側が必要なときに容易に医療情報を得るための道具として、社会の情報化を進める新技術媒体は非常に有望であり、新聞等においてもインターネットを利用した医療情報の在り方についての特集が組まれる等、関心が高い。また現時点では、利用者が自発的な意志により検索して見るインターネットのホームページ等については、医療法上の広告には該当しないと解釈されており、新技術媒体は医療機関側にとっても魅力的なものであろうが、医療法

B. 研究方法

(1)医療関係者の医療分野に関するインターネット利用の現状について、大都市から農・山村まで幅広い地域を含む神奈川県において予備的調査を行った。対象者は県医師会会員のうち、病院長363人、診療所長4,238人の計4,601人とし、郵送

法による質問紙調査を行った。質問項目はインターネットの利用頻度・使用目的、ネット上公開してもよいと考える情報内容等で、資料1に全質問内容を記載した。

(2)医療サービスを受ける側（患者及びその家族）の医療分野に関する新技術媒体利用の現状について、アンケート調査を行った。対象はインターネット上でホームページを持つ等、現時点で積極的に新技術媒体を利用している62グループとし、公開されている連絡先により、39団体は電子メール、23団体はFAXによる質問紙調査を行った。質問項目は(1)と同様に、インターネットの利用頻度・使用目的、ネット上公開してもらいたい情報内容等で、資料2に全質問内容を記載した。

(3)現状のホームページ上の医療機関による情報提供項目についての予備調査を行った。対象は1998年12月当時、日本医師会のホームページ (<http://www.med.or.jp/>) から www.osaka-med.ac.jp/~friend-2/toku/links.htm 経由で直接リンクをたどれる42都道府県医師会のホームページ上で提供されている項目とし、民間ホームページサービスにより提供されている情報項目との比較を行った。

(4)ホームページ上の医療関係キーワードのサーチエンジン利用についての予備的調査として、既に開発され一般的に広く使用されている種々のホームページ検索エンジンを(2)及び(3)の予備調査で実際に使用し、その評価を試みた。

(5)海外における医療関係機関に関する情報公開の事例を日本の場合と比較分析するため、米国のJoint Commission on

Accreditation of Health OrganizationsのWebページ (URL : <http://jcaho.org>) に記載されている情報の検索を行った。

C. 研究結果

(1)神奈川県医師会会員からのアンケート回答数は、病院長212（回収率58.4%）、診療所長1,986（回収率46.9%）、その他・無回答72で、全体としての回収率は49.3%であった。全項目の集計結果を資料1に示す。回答者の平均年齢は59.4歳±12.5歳（平均値±S.D.）、性別は男性が87.6%、女性が11.7%、無回答0.7%であった。

インターネットを利用している医師は全体の約30%であり、その平均年齢は52.3歳（平均値±S.D.）、利用していない医師の平均年齢は62.4歳（平均値±S.D.）で、両者の間には有意の差（Mann-WhitneyのU検定、 $p<0.001$ ）が認められた。また男性では31%、女性では22%が利用しており、性別による有意の差

（Fisherの直接法、 $p<0.01$ ）が認められ、男性における利用者の割合が多い。所属別では病院長の41%が利用しているのに対し、診療所長の利用は28%と少ない（Fisherの直接法、 $p<0.001$ ）。

インターネットで最も多く利用されているのは、医学医療以外の情報検索（73%が利用）であり、医学医療情報検索の利用は61%でこれに次ぐ。厚生省のWebページを週に1回以上閲覧している医師は4.6%、月に数回程度が20%、あまり閲覧しないと回答した医師は74%であった。日本医師会、神奈川県医師会、神奈川県下の郡市医師会のWebページについては、週

に1回以上閲覧が3.7%、月に数回程度が16%、あまり閲覧しないが79%であった。その他のWebページについては、週に1回以上閲覧が39%、月に数回程度が31%、あまり閲覧しないが27%であった。インターネットを連絡によく使っていると回答した医師は利用者のうちの47%であった。なお、インターネット利用者の39%は週に1回以上電子メールを利用している。回答者全員のうち“kanagawa.med.or.jp”にメールアドレスを取得していたのは、6.3%であった。

インターネット利用者が最も便利であると考えているのは、好きなときに使える(63%)点であり、次いで情報収集が簡単(58%)、最新情報がある(54%)を過半数の利用者が評価している。

インターネットの問題点として、利用者の50%が個人情報漏れる心配があることをあげており、そのうちの81%は、対策として個人情報を送らないと回答した。また利用者の41%は情報の正確性に疑いをもち、そのうち80%は対策として大学や研究機関などのデータを信頼できるものとして利用し、64%は厚生省などの公的機関のデータのみを使うと答えた。

現在インターネットを利用していない医師の27%は、今後使う予定があると回答している。現在利用していない医師の最も多く(41%)がその理由としてあげたのは、機械に弱いことであり、その他、時間がない、がそれぞれ26%でこれに続いた。費用の点を理由にあげた医師は5.8%であった。

医師会のWeb上に自院のホームページを開設している医療機関は全回答の3.3%で、

それ以外の場所にホームページを持つものと合わせ、3.9%の医療機関がインターネット上で自院の情報を公開している。今後、自院の情報を医師会のWebで積極的に公開したい(6.7%)、公開してもよい(50%)と考えている回答者を加え、6割の施設長は公開に前向きであった。その内容として、9割以上の回答者が公開に同意しているのは、病院・診療所の名称(95%)、診療科名(94%)、所在地(94%)、電話番号(93%)、診療時間(91%)及び診療(休診)日(90%)の6項目、他に過半数が公開に同意したのは、医師又は歯科医師の氏名(78%)、入院設備の有無(59%)、地図(51%)の3項目であった。

(2)患者グループ等からは24団体、69名からアンケートに対する回答があった。団体としての参加率は39%であった。今回の調査ではアンケート全文をWeb上で公開してアンケート実施を行ったグループもあり、全対象者数が不明であるため回収率は計算できなかった。全項目の集計結果を資料2に示す。回答者の平均年齢は41.1歳(平均値±S.D.)で、67%が男性、33%が女性であり、88%はインターネットを利用していた。性別による利用者の割合、及び利用者と非利用者の年齢に、有意の差は認められなかった。

インターネット利用者の66%は仕事に、59%は趣味によく利用しており、医学医療以外の情報検索は56%、医学医療情報検索は18%が利用していた。また31%がホームページによる組織紹介を利用していた。インターネット利用者の89%は週1回以上電子メールを使用しており、所属組織の

ホームページは39%が週1回以上、30%が月に数回程度閲覧している。厚生省、医師会あるいはそれ以外の医療ホームページを月数回以上閲覧しているのは、それぞれ21%、4.9%、28%であった。医療以外のWebページは、77%が月数回以上閲覧していた。

インターネットの利点として過半数の利用者あげたのは、情報収集が簡単(62%)、好きなとき使える(59%)、最新情報がある(56%)であった。インターネットの問題点として、個人情報漏れる心配があること、情報の正確性が不明であると回答したのはそれぞれ30%、25%であった。

各医療機関の情報を公開するのに最も望ましい場所については、厚生省のWebページとしたものが30%、次いで各医療機関のWebページ(29%)、その他のWebページ(16%)の順で、インターネット以外が望ましいと回答したものは10%であった。内容として病院・診療所の名称(93%)、所在地(90%)、診療科名(90%)、診療時間(87%)、診療(休診)日(84%)及び電話番号(81%)は、大多数の人が望む情報であった。他に2/3以上の人が情報として求めたのは、診察・検査・診断・治療の適切性(77%)、交通手段(77%)、医師又は歯科医師の氏名(73%)、入院設備の有無(73%)、救急医療活動(73%)、患者さんの安全への配慮(67%)、差額ベッド数とその料金(67%)、FAX番号(67%)であった。各項目において回答者の性別による差は認められなかった。

(3)日本医師会のホームページにリンクしている42都道府県医師会のWebページ上

で医療機関についての情報提供を行っていたのは、5県のみであった。その内容としては、医療機関名と電話番号のみが記載されているものが1県、その他の県では、医療機関名、診療科名、所在地、電話番号、FAX番号を掲載しているものが大部分であった。救急医療については、別のページに掲載されている場合が殆どであった。民間業者が提供しているページにおいては、複数の業者が上記の情報を全国分、地域別にまとめて提供するサービスを行っていた。

(4)医療関係のWeb検索のための検索ページとして、インターネット上で広く利用されているYAHOO! JAPAN (<http://www.yahoo.co.jp>)、goo (<http://www.goo.ne.jp>)、infoseek Japan (<http://www.infoseek.co.jp>)を評価した結果、YAHOO! JAPANは民間の医療機関紹介ページを検索するのに優れており、ここから地域の医療機関の名称・所在地・診療科名・電話番号・診療時間・救急医療活動等に関する情報を入手することが可能であった。しかしこのタイプの検索ページは分類された場所に登録されていないページは検索不可能のため、インターネット上で公開されている多方面にわたる医療関係のページを検索するには不向きであった。これに対し、goo、infoseek Japanのようなロボット型検索エンジンを使用したものは、数多くのページが候補に上り、使いこなすにはかなりの習熟が必要で、医療機関検索のための使用には向いていないが、医療機関紹介ページやYahoo! JAPANの分類ページに登録されていないものが検索可能であった。

(5) 米国の Joint Commission on Accreditation of Health Organizations では、北米地域において、医療関係機関の種別 (Ambulatory Care, Behavioral Care, Health Care Networks, Home Care, Hospitals, Laboratory, Long Term Care)、地域 (北米全域、州別)、機関名、市、Zip Code、郡を指定し、基準合格認定の結果別 (Accredited, Adverse Decision In Appeal, Accredited Commendatio, Accredited with Recommendations for Improvement, Conditional Accreditation, Provisional Accreditation, Preliminary Non-Accreditation) に医療関係機関を検索可能である。基準合格認定の結果を All とすれば、医療機関名を指定してその評価結果を得ることもできる。検索結果には、機関名称、所在地、郡、電話番号、Web ページアドレス、電子メールアドレス、基準合格認定の結果及びその日付、現在の状態およびその日付、医療関係機関の種別が記載されており、最終更新日も明記されている。基準合格認定の結果については、その説明を読むことができる。評価の詳細に関しては、個別に申請すると、FAX で提供される。

日本においては、財団法人日本医療機能評価機構による評価が同機構の Web ページ (<http://www.jcqhc.or.jp>) で公開されている。平成 11 年 3 月 15 日現在、掲載されているのは認定された 186 病院の病院名、所在地、電話番号、病院の種別であった。認定された病院の Web ページでは、この認定についてふれているものが存在した。

D. 考察

医療提供側の新技術媒体を用いた医療情報提供についての意識を解析するために、神奈川県医師会会員のうち、医療施設長を対象とした質問し調査を行ったが、これは本格的な現状調査を実施する手法を評価・検討するための予備的調査であった。対象地域とした神奈川県は大都市及びその近郊地域と人口の少ない地域の両方を含んでおり、予備調査の対象としては適当であったと考えられる。一方対象団体とした医師会の会員平均年齢は高齢化しており、さらに施設の長を対象としたことで、この傾向はさらに強まったと考えられる。インターネット利用者は非利用者よりも年齢が低い層に多いこと、大規模な施設 (病院) でのインターネット利用がより進んでいることが今回の結果から明らかであり、本格的な現状調査を実施する場合には対象者を勤務医、医師会会員以外の医師を含めたさらに広い範囲とする必要がある。

医師による情報検索において、医療情報よりも、それ以外の情報の検索にインターネットが多く利用されているが、その理由について明らかにする必要がある。また厚生省、医師会関係以外の Web ページを利用者の 7 割の医師が月数回以上閲覧するのに対し、厚生省、医師会関係の Web ページを 7 割以上の医師があまり閲覧しない理由についても明らかにし、必要があれば対策を講じることも課題の一つである。

医療サービスを利用する側の調査対象としたのは、現在インターネットを利用しているグループであった。これらのグ

グループは医療への関心が高く、かつインターネット等の新技術媒体を広く利用しており、この研究において利用の現状分析を行う対象として適切であった。ただし、医療サービスの利用状況、特にほぼ決まった医療施設のみを利用しているのか、複数の医療施設を必要に応じて使っているか、さらに利用頻度などについての情報も、対象者のプロフィールとして必要であろう。さらに、本格調査ではインターネット等を利用していない患者群、あるいは通常は医療施設をほとんど利用しない人も調査対象に含める必要がある。

医療機関がそれぞれのホームページ上で個別に提供している情報の内容は、我々の事前調査では多岐にわたるものであり、その現状を本格的に調査する手法を確立するためには、提供されている項目が比較的限定された医師会のホームページ等が適していた。本格調査では、各医療機関が個別に開設しているページを広く探索し、分析する必要がある。その際には膨大な数のホームページが調査対象となるが、ロボット型検索エンジンを備えた専用の検索エンジンを開発する必要

性も考えられる。

E. 結論

医療施設の情報は現在インターネット等の新技術媒体を利用して公開されている。情報の内容は多岐にわたってはいるが、医療法69条で認められた広告しうる事項が大部分を占める。しかし患者グループはさらに詳しい他の情報の公開も求めており、医療施設評価の結果もその要求に含まれていた。米国では、Joint

Commission on Accreditation of Health Organizaitions がWeb上で医療機関情報を提供しており、そこでは評価結果も公開されている。

新技術媒体上での医療施設情報公開について、適切なガイドラインを定めるためには各方面からの意見の集約が必要である。また現状では、医療提供側、利用者側とも、インターネット上の医療に関する情報を必ずしも十分に利用していないのが現状である。その原因を明確にし、情報が十分に活用される方向に持っていくことが必要である。

資料 1

インターネット等に関する医療機関アンケート調査結果

回収率	病院長	212/ 363=58.4%
	診療所長	1986/4238=46.9%
	所属不明	72
	計	2270/4601=49.3%

I 先生ご自身について

問 1. 年齢 59.4±12.5 歳 (平均値±S. D.)

問 2. 性別

1. 男	87.6%
2. 女	11.7%
3. 無回答	0.7%

問 3. 所属

1. 病院長	9.3%
2. 診療所長	87.5%
3. その他	0.4%
4. 無回答	2.8%

問 4. 主な診療科目 (一つだけお書きください。)

1 内科	35.1%
2 精神科	2.7%
3 小児科	8.5%
4 外科	6.0%
5 整形外科	7.4%
6 脳神経外科	1.1%
8 皮膚科	4.6%
9 泌尿器科	1.1%
10 産婦人科	5.7%
11 産科	0.1%

12	婦人科	1.4%
13	眼科	7.0%
14	耳鼻咽喉科	7.7%
15	放射線科	0.1%
17	麻酔科	0.2%
18	神経科	0.4%
19	神経内科	0.1%
20	呼吸器科	0.2%
21	消化器科	0.8%
22	胃腸科	1.9%
23	循環器科	0.5%
24	形成外科	0.3%
25	美容外科	0.0%
27	心臓血管外科	0.1%
30	肛門科	0.1%
31	その他	6.9%

II インターネットについて

問5. 先生はインターネットをお使いですか。 (回答者全員に対する割合)

- | | |
|------------|-------|
| 1. 使っている。 | 29.5% |
| 2. 使っていない。 | 70.1% |
| 3. 無回答 | 0.4% |

問6. 使わない一番の理由は何ですか。 (回答は一つだけ)

(問5. で「使っていない」と答えた人について)

- | | |
|------------|-------|
| 1. 費用がかかる。 | 5.7% |
| 2. 機械に弱い。 | 41.0% |
| 3. 時間がない。 | 25.6% |
| 4. その他 | 26.0% |

息子、娘 (4人) が皆使っているので依頼している。

必要がない。

特に必要を認めない。

準備なし。

パソコンがない。

インターネットを理解していない。

- ぜひ使いたいが、取り組みが遅れているため。
- ①パソコン説明書の理解不能な解説。
 - ②不道德事件のマスコミ報道（医は聖職なのにインターネットを扱うのが犯罪者か）。
 - ③講習、解説者の老人いじめ的言動。
- さし当たり必要がない。
- 切実な必要がない。
- 発注済、納入未。
- 会社での使用は禁止されている。
- 今でも情報過多。
- 目に悪いから。
- 近く使う予定。
- 現在の所、必要を感じない。
- 情報はあふれている。これ以上必要ない。
- インターネットは最近知った。
- 必要性を感じない。
- 公的予算がない（市立ゆえ）。
- 現在の所、必要を感じない。
- 晴れた日曜日、コンピューターに向かって一日、暗いでしょう。
- 必要がない。
- 趣味、自由。
- 法律の準備ができていない。
- 高齢であるので、いつ閉院になるかわからないので。
- 必要性がない。
- 必要性がない。
- 情報が信用できるとは限らない。
- 必要性がない。
- 近々始める予定。
- 現在、必要性を認めない。
- 必要性がない。
- アクセスできる情報の種類に不足を感じる。
- 必要性を感じない。
- 子供たちは大いに使っているが、めんどろ。
- 興味がない。
- 必要性を感じない。
- 必要性を感じない。

- パソコンをもっていない。
- 現在、保健所に導入を検討中。
- 抵抗がある。
- 必要性を感じない。
- 今更この年齢してあたらしいことはいらないので。
- 検討中。
- 必要を感じない。これ以上無駄な情報はいらぬ。
- 新しい機械（機種）に変えてから。
- 老齡、息子が引き継ぐ予定、彼がやるでしょう。
- 選任の担当が必要。
- めんどくさい。
- パソコンはあるが、つないでいない。つないでも何に使うか、目下必要ない。
- 必要性を感じない。
- 高齡。
- 必要を感じない。
- 現在検討中。
- 機械操作修得の時間がない。
- 特に興味がない。
- 機械がない。
- もっと優れた情報網がでてきそうな感じあり。
- なかなか接続しないので、面倒。
- 必要性を感じない。
- 意志がない。
- 必要性を感じない。
- やる気はあるが、Hard、softとも改良・進歩の時間が早く、パソコンを買い控えている。
- 使う必要がない。
- 現在のところ、必要を感じない。
- ①②③全てに関連があります。まだパソコンがない。
- 現在ちょっと中断している。
- 目が疲れる。
- この年齢で今更と思う。
- 子、孫はつかっているらしい。
- 興味がない。
- 関心がない。

- 今まさに始めるところ。
- 本年1月1日より開設者を息子と交替しましたので。
- 年だから。
- 使用する目的なし。
- 安全性。
- 必要性を感じない。
- 病院で利用している（部下が組織として）。
- 法整備が遅れている。
- インターネット・パソコン上の用語が専門的で理解できない。一般の人が使うには専門語が多すぎて難解である。
- 不必要。
- 覚えるのが面倒。
- 敢えて必要ないので。
- 使う理由がない。
- 現在の所考えていない。
- 特に必要性を感じない。
- 何のために使ったらよいかわからない。
- 使ってみたいと思っている。
- 設置場所が困難（電話およびfaxの傍らにスペースがない）。
- 診療所内で使用。
- 現在の状態で必要性がない。
- 機械はあるが、…時間がない。
- 機械に弱い縁も今のところない。
- 必要としないから。
- 入門する「すべ」がわからない。
- 不明。
- 老齢のため。
- 問題点が多すぎるので様子を見ている。
- 現時以上の情報は不要。
- 必要と思った事がなかった。
- 以前使用していて、転居のためまだセットしていない。
- 覚えられない。
- 2000年問題がよくわからないままに気になるので、2000年になってからがよいかと思案しています。
- そのうちにと検討中。
- 必要ないと考えるから。

- 必要を認めていない。
- 機械がない。
- 操作法を覚えるのが面倒だ。
- 興味なし。
- 必要性をみとめない。
- 機械がない。
- 現在のPCが何らかの理由で接続不可能。
- 年をとりすぎた。
- 必要としない。
- インターネット以外でも事は足りる。
- 必要がない。
- 特に必要と思わない。
- 面倒だ。
- セキュリティの問題。
- 高齢のため。
- 関心がない。
- 近いうちに使う
- パソコンをもっていない
- 得意現在必要がない
- パソコンを購入したあと、すぐ故障した。
- 今のところ、必要性がない。普及すれば、使うつもり。
- 電話回線をもう1本引く必要あり。
- 必要性がない
- 特に必要を感じない
- 興味なし
- 仕事が大変になる
- 現在のパソコンが非常に古くかなり困難で1から1～2ヶ月以内にパソコンを換える予定
- 設備なし
- 均一な情報を得るだけでナンセンスなことだから。
- 本年2月にパソコン購入、訓練はじめたばかり
- 他の情報が多く、情報の選択が面倒。
- 高齢のため
- 自分が高齢に過ぎるので、躊躇している。
- 不明
- 視力障害のため入院中

- 年で覚えられない
- コンピューターによる診療費の整理に時間を全部とられる（従業員は後込みしてやらない。）
- 機械がなかった。
- パソコンがありません。
- デジタル変換時に現在使用中のファックスetcが使用できない。
- インターネットはまだ時期尚早
- 必要としない。
- 切実な必要性を感じていないので、
- 特に必要性を感じないので
- あまり、必要を認めていない。
- 得たい情報がない。
- 使わなくても情報はあつた。ウィルスが入ると困る。
- 何となく
- これから使う予定
- 興味がない。また、必要性がない。
- 関心がない。スピードアップに否定的。情報の質
- いづれ使いたいと思っている。
- 年をとりすぎているから。
- 現在子供が使用中、3月卒業して東京の大学病院勤務になってから子供の譲り受ける予定。
- ワープロ、表計算、RDBで充分、モデムも操っていない。
- とりかえる手段がない。
- 機種が多く迷っている。
- 機械をどれにすればよいか迷っている。
- 必要がない。
- 現在、もっていないため
- パソコン未購入
- 高齢
- 勉強中
- 機械がない
- 機械はきれい
- パソコンを持っていない
- 会社に計画がない
- 設置はしてあるが、結局あまり有用性がないと感じた
- 最近PCを購入したばかりで、まだなれていない。

- 情報過多となって利用しきれぬと思う。
- さしあたり、必要としない。
- いまのところあまり必要性を感じない。
- 今のところ、犯罪等に使われる事が多い。
- 絶対必要性があるか疑問
- 不正に使用される危険性があるため
- 使う予定
- 必要がない。

5. 無回答 1.7%

問7. 今後、使う予定がありますか。

(問5. で「使っていない」と答えた人について)

- | | |
|---------------------------------|-------|
| 1. ある。 | 27.1% |
| 2. 興味はあるが、費用の面や機械の扱いの点で何ともいえない。 | 37.9% |
| 3. ない。 | 34.2% |
| 4. 無回答 | 0.8% |

問8. インターネットを何に使っていますか。(回答は三つまで)

(問5. で「使っている」と答えた人について)

- | | |
|---------------------|-------|
| 1. 連絡 | 46.5% |
| 2. 患者紹介 | 3.6% |
| 3. 専門医との相談 | 3.9% |
| 4. 医療機関検索 | 12.4% |
| 5. 医学医療情報検索 | 60.5% |
| 6. その他の情報検索 | 73.4% |
| 7. ホームページ掲載による自院の紹介 | 13.3% |

URL

<http://www.cityfujisawa.ne.jp/~matsnoge>

asukure@red.an.egg.ac.jp

<http://www.ss.iiij4v.or.jp/~tamiya>

<http://www.yk.rim.or.jp/ozasa/>

<http://www.furuhashi.com>

<http://oka.cl/>

<http://www.kdcnet.ac.jp/naika/>

<http://www.kenkoukai.or.jp>

<http://www.seapple.icc.ne.jp/~kodanicl/>
<http://www.cityfujisawa.ne.jp/~@tsurui'01/>
<http://www2.so-net.ne.jp/~drmana>
<http://www.geocities.co.jp/technopolis/6338/index.html>
<http://www.bekkoame.or.jp/~muffinyk/>
<http://www02.so-net.ne.jp/~ikedac/>
<http://www.odn.ne.jp/~aaa35740>
<http://www.angel.gr.jp/>
現在、作成中
<http://dd.iiij4u.or.jp/~otsuka/>
<http://www.mmjp.or.jp/hatanokousei/>
<http://www.ask.ne.jp/~mihojibi/index.html>
<http://Tokyoweb.or.jp/trhosp/>
http://plaza12.mbn.or.jp/~matsuba_hospital/
http://plaza12.mbn.or.jp/~matsuba_hospital/
<http://www.lares.dti.ne.jp/~asahi-hp>
<http://www.matsushima-hp.or.jp>
<http://www.members.aol.com/ophtana/ophthalmic.clinic>
<http://www.pluto.dti.ne.jp/~jamjam/index/htm>
<http://www.eva.hi-ho.ne.jp/thunderbird/index.html>
<http://www.evnet.ne.jp/hoyukai/>
<http://hatoir.or.jp>
<http://www.o2.so-net.ne.jp/~s-mukai>
<http://www.sekishiukai.or.jp/saiwaihp>
yamada-1@city.fujisawa.ne.jp
mel51151@peach.ocn.ne.jp
<http://www.yokohama-bay.or.jp>
<http://www1.doc.net.or.jp/~murata/>
<http://www.tecnet.or.jp/~norikazu>
<http://www.evne.ne.jp/hoyukai>
<http://www.sekishinkai.or.jp/saiwaicl>

8. その他

○E-mail。

○宗教関係。

○ペインクリニック（良導絡）、特に五十肩、ぎっくり腰の治療は大抵1～2回で治療できる。

- 趣味、自由。
- 近くocn契約となります。
- 現在、十分に稼働していない。
- メールのみ。
- ラボネット。
- 趣味。
- 原稿の送信。
- 啓蒙活動。
- メーカーリストを組んでいる。
- ホームページで新聞を出して医学情報を提供している。
- テンゲングラムのホームページ掲載。
- 趣味。
- 開業医のIN間の情報（ML）。
- ホームページによる個人趣味の紹介。
- 子供とメールするのみ。
- 趣味のホームページ等を毎日checkしている。
- 米国人との交流
- 練習中
- 検査センターからのデータの取り込み
- 論文作成
- E-mail
- 趣味
- 検査会社からのデータ受け取り
- E-mail

問9. 便利な点は何ですか。（回答は三つまで）

（問5. で「使っている」と答えた人について）

- | | |
|--------------|-------|
| 1. 最新情報がある。 | 53.8% |
| 2. 情報伝達が早い。 | 43.9% |
| 3. 情報収集が簡単。 | 58.3% |
| 4. 情報が豊富 | 36.6% |
| 5. 好きな時に使える。 | 62.9% |
| 6. 安価である。 | 12.3% |
| 7. その他 | |

自分の興味のあるものにアクセスできる。

特に現在迄は口コミでペインクリニックの方が利用者が多いが、今後

インターネットを利用したい希望あり。

- 画面を送ることが可。
- 医療の変革が来る。
- 情報発信ができる。
- 利用者がおおいので、通信に便利。
- 外国情報に特に便利（洋書、自動車部品等）。
- 海外の情報交換が容易
- 世界中の情報が自宅で収集できる
- まだなれていない。
- 原稿をテキストとして送れる
- 手紙より簡単に連絡が取れる

問10. 問題点は何ですか。（複数回答）

（問5. で「使っている」と答えた人について）

また行っている対策があればお教えてください。

（1. に○をつけた回答者について）

1. 個人情報が漏れる心配がある。 49.5%

対策：

- 1. 個人情報は送らない。 81.3%
- 2. 名前など個人を識別できるデータは付けない。 26.9%
- 3. 暗号化して送る。 8.2%

4. その他

- ホームページを開設していない。
- 特に何もしていない。
- 患者名はイニシャルで送る。
- 漏れる情報は送らない。
- 個人情報は国定の人にしか送らない。
- 現在個人に関わるものを極力避ける。
- コード化（個人識別のため）。
- 自前サーバなので専用のZD、パスワードを発行し、FTPを使っても
らう
- もれても良いデータを送る
- 当分の間、ホームページの開設はしない。
- Firewallの構築
- 対象が限られる
- Security Zoneを利用する

- 他の情報全て情報過多。
- 漏れてもいい情報しか出さない
- 数年前、左目打撲のため両眼視傷害・眼精疲労
- 十分対策がとれないまま使用している。
- まだわからない。

2. 掲載された情報が正確であるかどうか不明である。 40.7%

(問5. で「使っている」と答えた人について)

対策： (2. に○をつけた回答者について)

1. 厚生省などの公的機関のデータのみを使う。 63.6%
2. 大学や研究機関などの信頼できるデータのみを使う。 80.1%
3. 電話やFAXなどで裏付けをとる。 12.5%
4. その他
 - 自分の判断で正確な情報かを判断
 - ある程度のリスクは安価のためしかたがない
 - 医師会でやれば、それは違う
 - パソコンでもインターネットでも誠心誠意、手をとって教えてくれる人がいない。変な教室(パソコン教室)でも入ってカモになる心配あるため
 - いくつもデータをとってある。
 - 最近の医学的治療法を入手可能
 - 単なる参考としか考えていない。
 - 調査する
 - 重要な情報はインターネットではとらない
 - 情報はとり入れるが、信用しないで他の情報との整合性をかんがえるかあるいは参照程度にとどめる。
 - 種々のデータとつきあわせる
 - 老齢のため関心がない
 - 自力で確認、判断
 - 自分で判断する
 - うのみにしない。
 - 情報のランク付けを
 - 参考程度に考えている。
 - あやしいものには近づかない

3. その他の問題

- 医師会員に対する厚生省・医師会の会社の社員の対応。

- 対策：会員に加入していない医師への対応はどうなっているのか。
- ①通信コスト ②プロバイダへの接続。
対策：①テレホーダイを使用 ②11時以降プロバイダーにつながりにくい。
 - 医療機関等の広告についての規定がインターネット上ではないこと（法律上）。
 - 海外からの不正アクセス。
対策：Fire Wallの確立。
 - Fire Wallの確立。
 - めんどろである。時間が無駄。
対策：使わないこと。
 - 高価。
 - まだ医療機関のホームページが少ない。
対策：各医療機関が自分のHPを作って情報発信をしてゆくことが望まれる。
 - 年々データが増え、ホームページを閲覧するのに時間がかかるようになった。
対策： unnecessaryな線や写真を減らしていただきたい。
 - 時間がかかる。
 - 返事がこないと届いたかどうかわからない。
 - 一般的には必要な情報はあまりない。
対策：積極的に利用したり、あてにはしない。
 - 有料にできない医療情報を無量に提供している。
 - 高齢者にとってはなかなかおぼえられない。
対策：藤沢医師会方式がよいと思います。
 - 医師の間でインターネットの普及が不備。
対策：医師会がリードして容易に使えるパソコンを導入する。
 - SPAMメールの増加。
対策：フィルターリングソフトを使う。
 - まだまだ情報が遅く最新といえるものがない。
 - この先、如何なる事が発生するか不安。
 - プロバイダーによっては回線が混みあい、転送できない。
対策：プロバイダー変更中。
 - ほしい情報を的確かつ、簡単に検索する方法がない。
 - 院内LANとつないでいない。
対策：ファイアーウォール等の構築。